

授 業 概 要

Syllabus

2019
【2年次】

富良野看護専門学校

1. 基礎分野

哲 学
人間工学
文化人類学
人間関係論

教 科 目 名	哲学	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者		講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	本講義では、脳死、臓器移植、安楽死及び尊厳死等、現代の医療現場で生じうる、倫理的問題を含む諸状況について理解を深めることを目指すとともに、こうした倫理的問題についての考察の基礎にある「責任」という概念について、その基礎付けの可能性を探る。また、狭義の「倫理学」には属さない哲学的諸問題についても、いくつかのトピックをとりあげる予定である。これらの問題を通じて、学生諸君に、自ら思考する楽しさを味わってもらいたい。
授業の形式	講義
成績評価の方法	授業中のレポート及び小テスト
教科書・参考書	(教科書)
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	哲学Ⅰ 行為と責任	①行為と出来事 ②責任概念 ③意図と責任 人が、自らが為した事に対して責任を持つのはどのような場合かについて学ぶ。それを通じて「意図」や「自由」、「責任」といった概念について理解を深める。
2		
3		
4	医療論理 医療論理の諸問題	①パーソン論 ②SOL/QOL ③安楽死及び尊厳死 ④中絶問題 ⑤インフォームドコンセント ⑥予防医学 ⑦医療資源の配分問題 ⑧遺伝子操作 ⑨人口臓器 ⑩総論 「人間」について、生物学的観点と社会的観点の両方からの眺望を提示し、それを元に今日の医療現場における倫理的諸問題について論ずる。 左にあげた各項目について、その内容を適切に理解することを第一目標とし、最後に小テストを行う予定である。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	哲学Ⅱ コミュニケーション の哲学	①コミュニケーションとは何か ②言葉と意味 「他者の発話を理解できるのはなぜなのか？」という問いを中心に講義をすすめる。その際に「言語とは何か」、「規則と規範」といったトピックについて問題提示を行い、レポートを課す予定である。
15		

教 科 目 名	人間工学	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者		講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：人間工学が人間の生活のあらゆる場面に応用されていることを学び、その科学的根拠を理解する。</p> <p>目標：1. 人間の生活に人間工学がどの様に活用されているか理解する。 2. 生体の構造と生理、人間工学の方法論を理解する。 3. 日常生活において具体的に人間工学の応用が理解できる。</p> <p>内容：1. 人間工学の概念 2. 障害のとらえ方と環境 ユニバーサルデザインなど 3. 身体運動とその仕組み 1 バイオメカニクス；生体工学的観点 4. 身体運動とその仕組み 2 キネシオロジー；運動学的観点 5. 姿勢と歩行 6. ADL・看護動作との関係</p>
授業の形式	講義 演習
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	(教科書) 指定しない。
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	概論	人間工学とは
2	障害のとらえ方と環境	ユニバーサルデザインなど
3	身体運動とその仕組 1	バイオメカニクス：生体工学的観点
4	身体運動とその仕組 2	キネシオロジー：運動学的観点
5	姿勢と歩行	
6	ADL・看護動作との関係	
7	まとめ	
	学科試験	

教 科 目 名	文化人類学	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者		講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的:生活体としての人間を文化の側面から理解し、異文化や他者を深く理解するための視点と方法を身につけることにより、異文化の多様な価値観とその背景を踏まえ、看護の対象への洞察力を高めると共に自己理解を深める。</p> <p>目標:1. 多様な文化における価値観の違いとその背景を理解する。 2. 人間の健康生活に文化が影響していること、看護を提供する上で対象者の病気観、健康観、身体観への理解が不可欠であることを理解する。</p> <p>内容:1. 文化の多様性 人間社会に見られる変化に富んだ食習慣を例に文化の多様性、文化相対主義について学ぶ。</p> <p>2.文化と病気 健康と病気を社会や文化との関係でとらえ直し自分たちの社会がどのような病気観をもっているかを考える。</p> <p>3. 生と死にまつわる習慣 生と死は人間に普遍的だが、その習慣は文化によって多様である。生と死の境界、トラジャの葬式(ビデオ)などについて学ぶ。</p> <p>4. 性と生殖(リプロダクション) 多様な文化における性と生殖にまつわる習慣について学び、さらにリプロダクティブヘルス・ライツという考え方が出てきた背景を学ぶ。</p> <p>5. 分類の境界と通過儀礼 人やモノは分類されており分類の境界を越える時に儀礼が行われる。人の一生は通過儀礼から成っていることを知る。</p>
授業の形式	講義
成績評価の方法	講義終了後の試験と、随時行う小レポートによって評価します。 出席も成績評価の対象とします。
教科書・参考書	(教科書) プリントを配布します (参考書)「病と死と文化」池平恵美子著 朝日選書 「医療人類学のレッスン」池田光穂、奥野克己著 学陽書房
メッセージ	

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	文化人類学とは	・文化人類学とは、フィールドワークについて
2	異文化理解の重要性	・文化人類学による「異文化研究」の視点
3	「文化」としての身体	・「障がい」について考える
4	文化と病気	・「いのち」について考える
5	生と死にまつわる習慣①	・病気、病人、患者について考える
6	生と死にまつわる習慣②	・日本社会における死生観 ・アマゾン、インド・ネパールの人々の死生観
7	性のリプロダクション	・文化によって異なる生殖理論 ・高度生殖補助医療について考える
8	まとめ	
	学科試験	

教 科 目 名	人間関係論	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者		講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	目的：コミュニケーションの基礎理論やグループダイナミクスを学ぶ。 目標：1. 他者との関わりの中で生じている人間関係的なプロセスに気づくことができる。 2. 人間関係の中での自己のあり方や特徴に気づくことができる。 3. 言葉や態度による人との対応のあり方を学ぶことができる。
授業の形式	講義およびグループワーク (事例)
成績評価の方法	グループワークへの参加態度および報告 70%、最終レポート 30%によって評価
教科書・参考書	(教科書)
メッセージ	

回	授 業 内 容
1	援助関係について －他者援助を職業として選択するということ－
2	自己理解と価値観 (グループワーク)
3	他者理解－病気障害をもつということ
4	援助関係のスキル (プリント) 1
5	援助関係のスキル (DVD) 2 －事例場面が学ぶ－
6	看護場面の演習 1 (グループワーク)
7	看護場面の演習 2 (グループワーク)
8	発表とまとめ